

(財) 日本環境協会理事長賞

自然のすばらしさ

青山小学校 遠藤 冨花

今ぼくたちは、学校の屋上で畑を使い野菜を育てています。実際に屋上で里山を作り自然にふれあい野菜を育てる。こんな体験は、なかなかできることでは、ありません。

ぼくたちは、五年になった四月に、里山のことを知りました。でもまだその時に、野菜作りを自分たちの手でやるということ、思いませんでした。今ぼく達の班では、大根・カリフラワー・ニンジン・ホウレン草・カブの五種類の野菜を育てています。最初は、消費者であるぼくたちが野菜を作るなんて無理だと思っていました。確かに汗は出るし、手や腰はいたい。肥料となるけいふんは、とっても臭い。でもそんな野菜作りでも、うれしいこともあります。苦労して作った野菜が、「おいしいね。苦手な野菜が好きになったよ。」というほめ言葉ももらうのがうれしいです。

しかし、ぼく達にも自然の大切さ・すばらしさと野菜作りの楽しさや苦労などを教えてくれた先生がたがいます。それは、青山小学校の副校長先生と、無農薬農家の常世田さんとその作った野菜をレストランで使用しているシェフの神保さんです。

自然のすばらしさは、緑がおいしげり、春になればチョウなどの虫たちがみつを求めて花畑にぎやかに飛びまわります。夏には、雑木林の中に自然のクーラーがかかっているかのよう涼しく、風が吹けば草木がゆれてその間からキラキラと日差しが入って気持ちよい。秋には、様々な植物が実って豊作になります。稲は黄金に輝き、空には、真赤な夕日に照らされた鯛雲が漂っている。冬は、動物たちの気配がなくなり一面、銀世界になる。そこに様々な絶景を生み出す。こんな事が行われている里山を自然として必要な物だと感じました。

ぼくたちは今、お米も育てています。その方法を教わるために、常世田さんに会うべく千葉県旭市へ行きました。そこには、段差のある田んぼをみつけました。このような田んぼを棚田ということを知りました。そして田んぼを間近で見ると、とっても広くて、

「常世田さんは、こんなに広いところを一人でやっているんだ。」

とあって、驚いた反面すごく感心しました。そしてぼくたちが田植えをやったのは、一つの田んぼの十分の一も満たない広さで田植えをしました。ぼくたちは、最初は、

「なーんだ。意外とぼくたちが植えることせまいじゃん。これを十八人でやるんだったら簡単だね。」

と思いましたが、そしたら、なんと難しいこと。入ってみると、土はどろどろで入った時に足がグニヤリとした感触だったので寒気がして、びっくりしました。そして田植えを

終えるのに一時間と三十分かかってしまいました。今、思ってみると、常世田さんは、これの十倍。いやいや百倍ほどの広い田んぼを、一人で田植えをする苦勞を改めてすごいことだと実感しました。そして、この体験で習ったことを活かして学校で田植えをしました。千葉県旭市の田んぼの良いところを似せて見事、成功しました。そして十月三日に再び常世田さんのところへ行きました。そして稲かりの方法を学び、かまの使い方も知りました。このような体験のすべてを劇で発表しました。

今の日本の食料自給率は、世界では、下の方。でも自然を多くすることによってCO2削減につながると思っています。そして、今ぼくたちが行っている里山がこの第一歩で、自然への切符だと思えます。